

水産基盤ストックマネジメントへ向けた (財)漁港漁場漁村技術研究所の取り組み

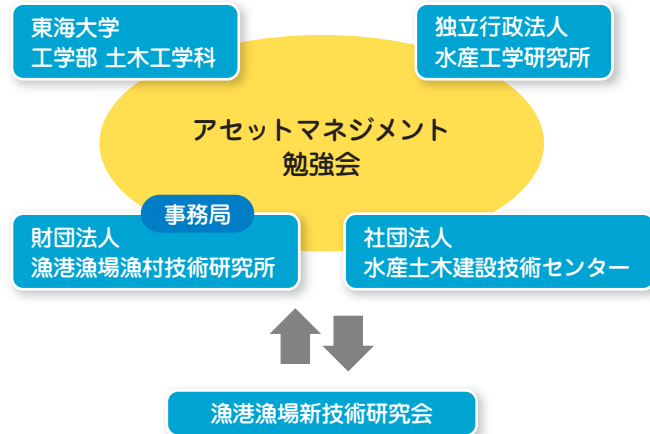
現状における課題

我が国において、社会資本へのマネジメント手法適応の検討が始められてから日は浅く、LCCの算出方法など未だに提案・研究の段階にあるものもあります。また、水産基盤施設整備においては、生産から流通・販売までを一体的に捉えた水産物集出荷圏域における重点化整備が進められ、LCCの最小化を図るとき、その対象施設範囲を個別施設、漁港、圏域など、どの程度の単位が適切か、今後の検討課題となっています。



私ども研究所では

効果的で効率的な施設の改良・更新によるストックの有効活用を図るため、アセットマネジメント導入に関する諸々の調査を行い、実施段階における問題点や課題を整理し、その対応策を明確にするとともに、自主研究の一環として勉強会を立ち上げ、課題の解決に取り組んでいます。



ストックマネジメント 関連業務実績

- 効率的な維持更新方策の検討（平成17年度・水産庁）
- 既存ストックの有効活用に関する検討（平成17、18年度・水産庁）
- 西郷漁港老朽化調査及び維持管理計画検討（平成18年度・島根県）
- 名護漁港鋼構造物に関する腐食対策調査（平成18年度・沖縄県）
- 長崎県漁港施設老朽化診断調査（平成19年度・長崎県）
- 海岸保全施設におけるライフサイクルマネジメント検討調査（平成19年度・水産庁）

水産基盤ストックマネジメント事業（水産庁）

- 趣旨**：水産業の健全な発展及びこれによる水産物の安定供給を図るため、水産基盤整備事業等により総合的かつ計画的に施設整備を実施してきたところであるが、近年、整備後の施設の老朽化とともに、更新を必要とする施設が増加してきていることから、管理を体系的に捉えた計画的な取り組みにより、施設の長寿命化を図りつつ更新コストの平準化・縮減を図る。
- 事業内容**：施設の老朽化状況を調べる機能診断を実施し、その結果に基づき当該施設の機能を保全するために必要な対策方法（維持管理計画を含む）を定めた機能保全計画を策定するとともに、当該計画に基づく施設の保全工事を実施。
- 事業実施主体**：漁港管理者（地方公共団体）
- 補助率**：1/2等

財団法人 漁港漁場漁村技術研究所

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-14-10
TEL 03(5259)1021 FAX 03(5259)0552
<http://www.jific.or.jp>

(2008. 4. 24)

後世に大切な資産を引き継ぐために...

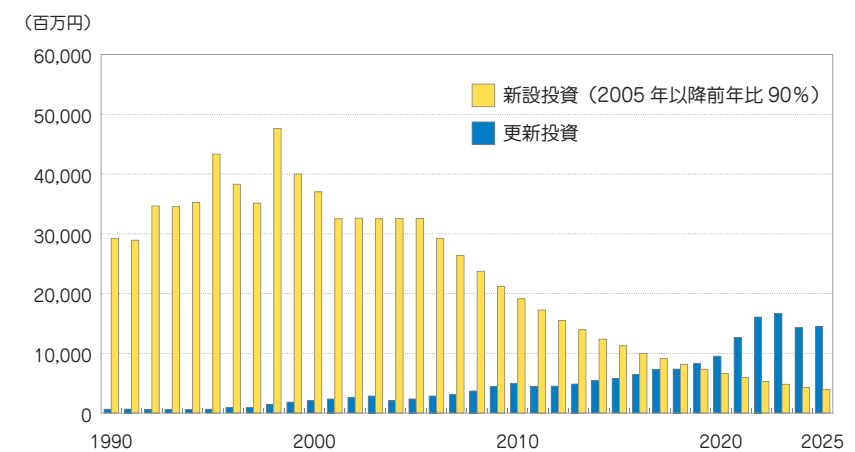
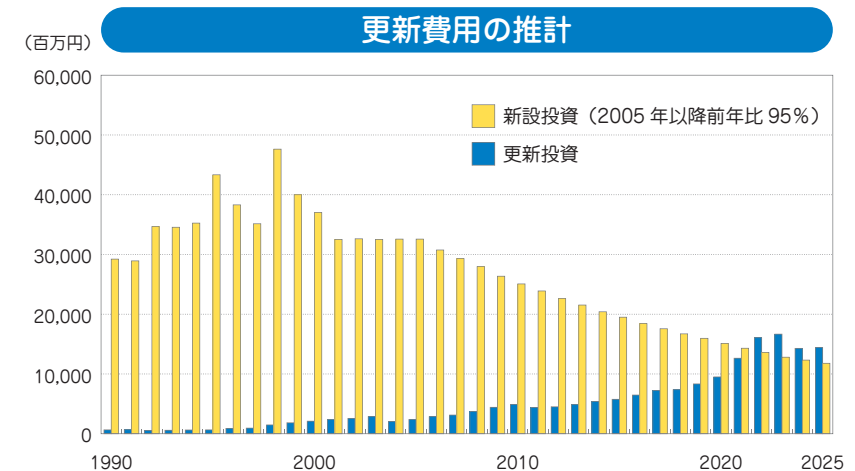
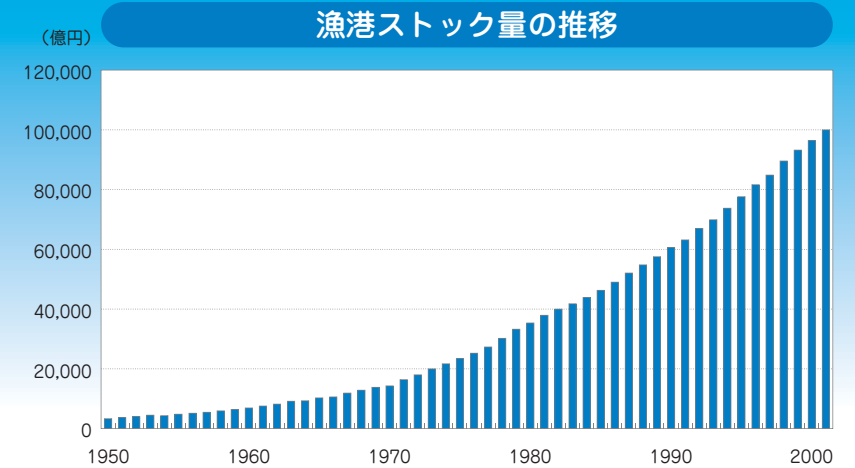
水産基盤ストックマネジメント

～水産基盤施設の更新に向けて～



これまでの水産基盤整備事業により、水産関係公共施設のストック量は年々蓄積の一途をたどってきましたが、これらの施設の中には、すでに耐用年数を超えるものや老朽化が進む施設もあり、今後、さらに更新時期を迎える施設の増加が見込まれ、それにもなう改良・更新費用の増大が予想されています。

良質な水産物の安全供給を推進していくためには、水産公共施設の機能維持・強化が不可欠で、近年の厳しい国と地方の財政状況の下、効果的で効率的な施設の改良・更新によるストックの有効活用が求められています。



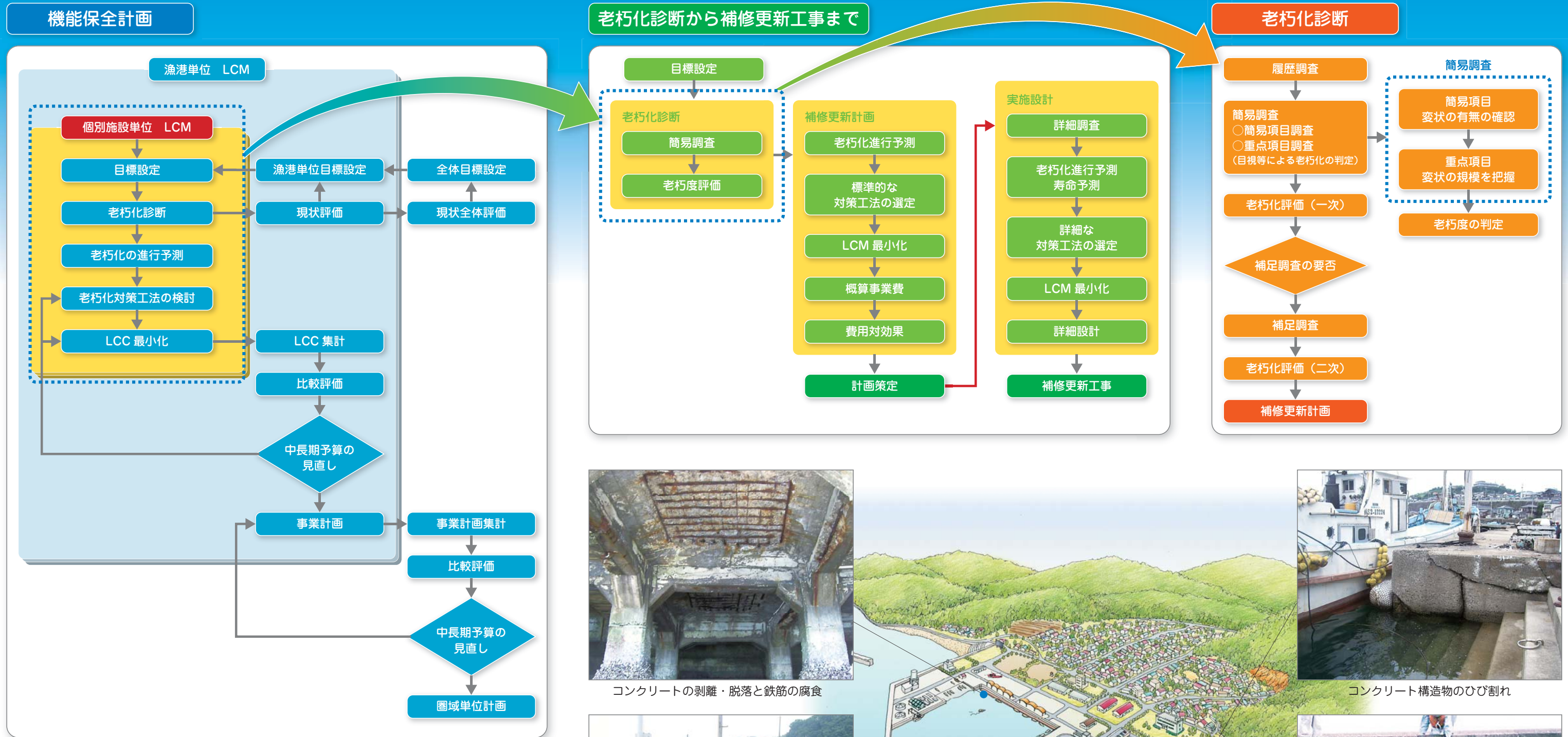
財団法人 漁港漁場漁村技術研究所

漁港施設のストックマネジメント

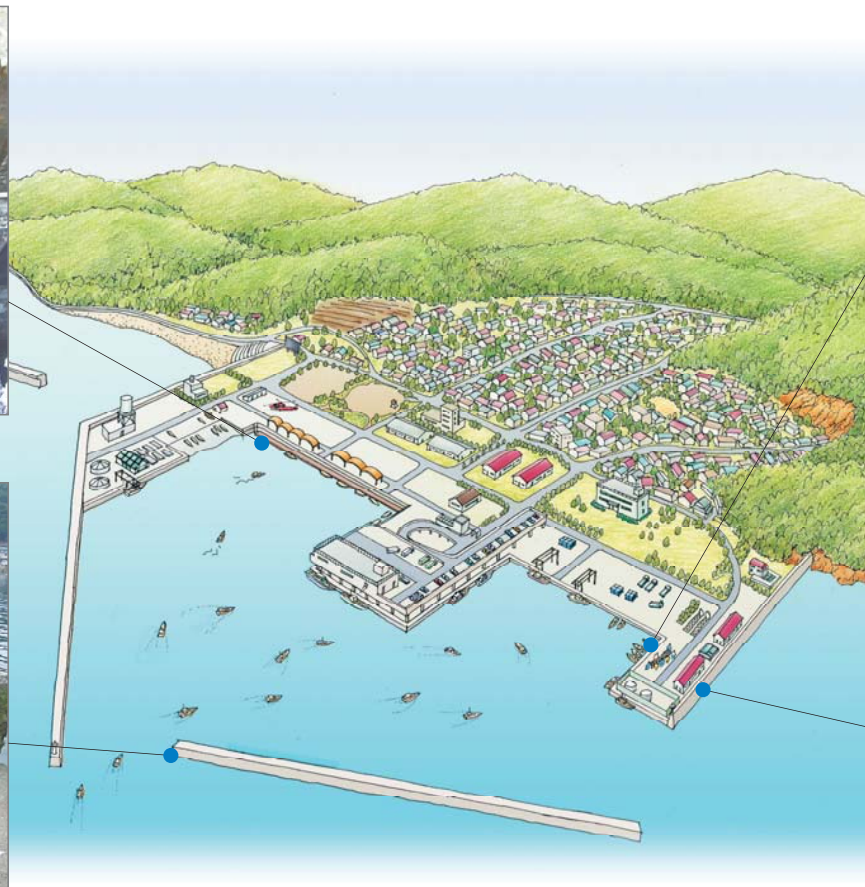
アセットマネジメントの目指すものは、資産がもつ価値の増分と低減されたコストの差を大きくすることと言えますが、未だにこの手法は研究段階にあり、現状では、多くの社会資本アセットマネジメント、もしくはストックマネジメントでは、LCC（施設の供用期間に生じる全ての費用）の最小化を図ることを目標として行われています。漁港施設においても同様にLCCの最小化を図ることを目標としています。

ライフサイクルマネジメント（LCM）

LCCの最小化（または、平均費用の最小化）を目的とした補修更新の最適化を目指す施設の管理手法で、ある一定の性能目標を満たしながら各年度の予算とLCC最小化のバランスを図るシステムです。



コンクリートの剥離・脱落と鉄筋の腐食



コンクリート構造物のひび割れ



コンクリート構造物（上部工）の劣化



鋼構造物の腐食

財漁港漁場漁村技術研究所では

私ども財団法人 漁港漁場漁村技術研究所では、ストックマネジメントに関する自主的な調査・研究を行っております。水産基盤ストックマネジメントにあたっては、円滑な事業の実施に向け、地方公共団体の皆さま方に協力できるものと考えております。